

平成21年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成21年12月24日〕
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十勝支庁産業振興部

1 考え方

本集計は、平成21年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合（以下、農協という）の年間総取扱高について各々試算したものの集計であり、商系取扱高は含んでいないことから、管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、水田・畑作経営所得安定対策交付金、先進的小麦等支援事業助成金、加工原料乳生産者補給金を含む。

なお、本集計には収入減少影響緩和対策、共済金支払額及びてん菜の委託加工・市場隔離玉収入は含まない。

2 平成21年の概要

**農協取扱高は、耕種部門が冷湿害の影響を受け減収したものの、酪農の伸びにより、
2,444億円**

※ 21年産農畜産物に係る農協取扱高については、耕種部門で114億円減の1,106億円、畜産部門で57億円増の1,338億円。全体では前年比98%、57億円減の2,444億円。

(1) 耕種部門

本年は、6月・7月の記録的な多雨に加え、低温・日照不足の影響により、小麦や馬鈴しょ、豆類、てん菜を中心に湿害による生育不良など、減収や品質低下といった被害が発生。

- 小麦については、子実の充実不足による収量の減少や製品歩留まりの低下により、前年比34%減。
- 豆類については、8月以降の天候回復により大豆は平年並を維持したものの、小豆や菜豆は収量が減少。特に菜豆類の生産量の大幅な減少により前年比23%減。
- 馬鈴しょについては、生産量は減少したものの、食用馬鈴しょの価格が高値で安定していることから、前年比3%減程度。
- てん菜については、湿害の影響により収量は前年を下回るものの、糖分は前年を上回ることから、前年比4%減程度。
- 野菜については、湿害等の影響により、生産量は昨年より全体的に減少したものの、にんじんやだいこんなどは秋口まで高値で取り引きされたため、前年比3%減程度。

◇耕種部門取扱高 1,106億円（対前年比 91% 構成比45%）

(2) 畜産部門

- 酪農は、乳価の引上げや増産型の計画生産による生乳生産量の増加により、昨年を大きく上回り、前年比7%増。
- 肉用牛は、景気の低迷による牛肉消費量の減退から、と畜頭数は減少したものの、家畜市場での個体取引における黒毛和種頭数の増加や交雑種の高値推移により取扱高が増加したことから、全体では昨年並。

◇畜産部門取扱高 1,338億円（対前年比 104% 構成比55%）

3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	平成21年（概算値）		平成20年（実績値）		前年対比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比	
耕種	麦類	117	4.8	177	7.1	△ 60	66
	雑穀・豆類	110	4.5	142	5.7	△ 32	77
	馬鈴しょ	215	8.8	222	8.9	△ 7	97
	てん菜	185	7.6	193	7.7	△ 8	96
	野菜	202	8.2	208	8.3	△ 6	97
	その他	9	0.4	10	0.4	△ 1	90
	固定払	268	11.0	268	10.7	0	100
小計	1,106	45.3	1,220	48.8	△ 114	91	
畜産	酪農	936	38.3	872	34.9	+ 64	107
	生乳	826	33.8	755	30.2	+ 71	109
	肉用牛	364	14.8	365	14.6	△ 1	100
	豚・鶏	19	0.8	21	0.8	△ 2	90
	その他	19	0.8	23	0.9	△ 4	83
小計	1,338	54.7	1,281	51.2	+ 57	104	
総合計	2,444	100.0	2,501	100.0	△ 57	98	

（注）ラウンドの関係で合計は必ずしも一致しない。